

中和抗体療法の意向確認に係る説明書

1. 中和抗体療法とは

- ☐ 中和抗体療法とは、新型コロナウイルスが増殖するのを防ぐために、体内に抗体を注入する治療法です。
- ☐ 投与対象は、次の条件に当てはまる方です。
 - 保健所から濃厚接触者に指定されている
 - 酸素投与を必要としない
 - ワクチン接種歴がない、またはあっても効果が不十分と考えられる
(県ではワクチン2回接種後6か月以上経過した方は対象と考えています。今後ワクチンの3回目接種が進むと思いますが、3回接種した方は効果に個人差があると思いますので、接種時期や御自身の基礎疾患等によって中和抗体療法の対象にならない場合があります)
 - 50歳以上または重症化リスクがある
- ☐ 2021年11月には濃厚接触者に対する発症抑制のための投与も可能になりました。

2. 中和抗体療法に関する注意点

- ☐ 中和抗体薬による治療により、アナフィラキシーを含む重大な副作用が発生することがあります。
- ☐ インフュージョンリアクション…点滴した際に起こる体の反応で、過敏症やアレルギーのような症状が現れます。
(例：発熱、胸痛、蕁麻疹、悪寒、胸の不快感、全身のかゆみ、吐き気等)
- ☐ 重篤な過敏症…薬に対してからだの免疫機能が過敏に反応することで、全身に起こる急性アレルギー反応がまれに現れることがあります。(例：全身のかゆみ、吐き気・嘔吐、蕁麻疹等)
- ☐ また、過去に注射剤などで重篤なアレルギー症状を起こしたことのある方や他に薬などを服用している方は、投与前に医師に伝えてください。

3. 中和抗体療法の効果

- ☐ 発症から時間の経っていない軽症者、特に肺炎を起こしていない初期の患者に投与することで、ウイルスの増殖を阻止し、重症化を防ぐ効果があります。
- ☐ 県内で投与された 70歳代以上の方の入院率は、投与されなかった方と比較して30%以上低減しています。

4. 投与について

- ☐ まず、医師が診察を行い、医師又は看護師が点滴静注を1回行います。
- ☐ 投与後1時間は、医師が経過観察します。
- ☐ 投与後24時間以内に副作用が出た場合には、医師が対応できるようにしています。
- ☐ 万一、重篤な副作用が出た場合などは、医療機関へ入院できる体制があります。

5. その他

- ☐ 投与前には、担当医師から本剤に関する説明をします。
- ☐ 投与に同意しない場合でも、今後の治療に不利益になることはありません。
- ☐ 投与へ意向を示した後、お考えが変わった場合には、投与前にいつでも意向を取り下げることができます。